

カツオ 東部太平洋

Skipjack, *Katsuwonus pelamis*



管理・関係機関

全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長100 cm・30 kg
- 寿命：6歳以上
- 成熟開始年齢：1歳
- 産卵期・産卵場：周年・表面水温24℃以上の海域
- 索餌期・索餌場：熱帯・温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類等

利用・用途

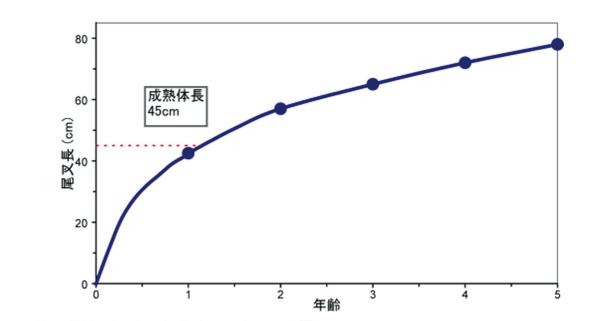
缶詰原料等

漁業の特徴

現在の漁獲はほとんどがまき網による。まき網では、集魚装置 (FAD) を用いる操業と素群れを対象とする操業があり、漁場はカリフォルニア沖から北部南米沖である。国別ではエクアドルが約半分を占め、次いでパナマ、メキシコ、コロンビア等が主要な漁獲国となっている。日本は本海域でカツオを主対象とした漁業を行っておらず、漁獲量ははえ縄によるわずかな量のみである。

漁獲の動向

1950年代までは竿釣りを主として約5万トンの漁獲であったが、1960年代から竿釣りは急速に減少し、代わってまき網による漁獲が主となった。1990年代から漁獲量は増加傾向にある。近年の総漁獲量は20万～30万トンを維持している。2018年は約28.9万トンであった。



東部太平洋におけるカツオの成長

資源状態

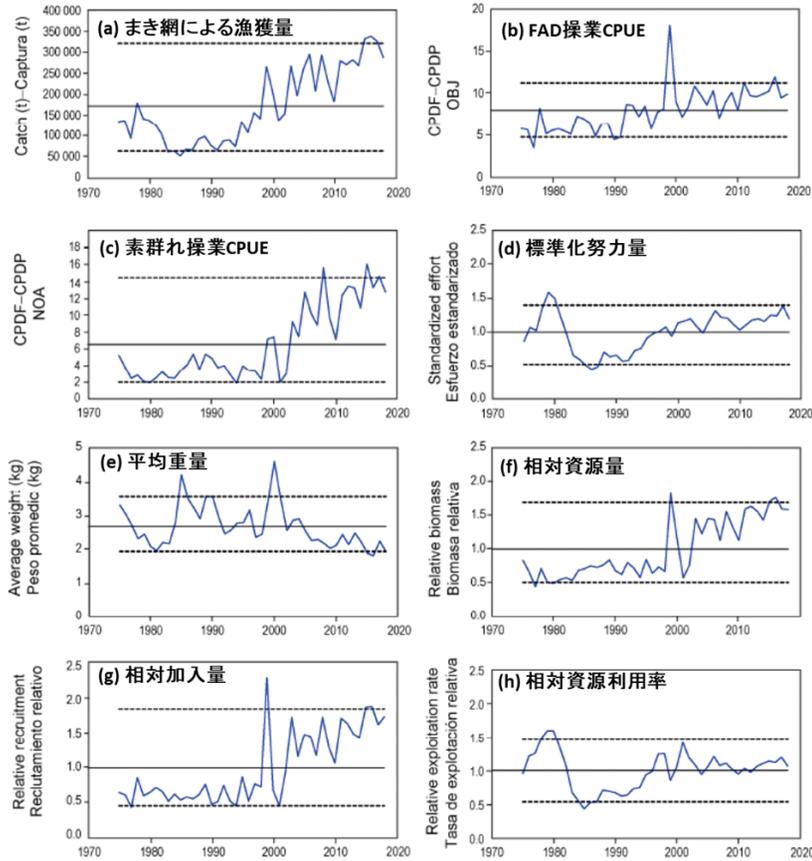
最新の資源評価はIATTC事務局により2012年に4つの手法 (a. 漁業・生物学的指標値; b. 標識データ解析; c. サイズ組成資源評価モデル; d. 空間資源動態モデル) により行われた。相対資源量は2000年以降増加に転じ現在まで横ばいで推移している。相対加入量も同様の傾向を示し、2000年以降横ばいで推移している。資源状態は不確実であるが、資源が悪化する明確な証拠はないとされ、資源は高位、横ばいと判断された。2019年には、前年までの各種の漁業・生物学的指標値 (まき網による漁獲量、FAD操業 CPUE、素群れ操業 CPUE、標準化努力量、平均 (漁獲個体) 重量、相対資源量、相対加入量、相対資源利用率の8つ) が更新された。漁業・生物学的指標値からは資源状態を判断することは難しいが、更新されたFAD操業 CPUE、素群れ操業 CPUEにおいてはともに高い水準で推移していた。

管理方策

資源状態は高位、横ばいであり、本種を対象とする保存管理措置はIATTCにおいて導入されておらず、メバチ・キハダの保存管理措置として、まき網漁業に対し72日間の全面禁漁及び沖合特定区での1か月間の禁漁が導入されており、結果的に本種に対する漁獲努力量は制限されている。

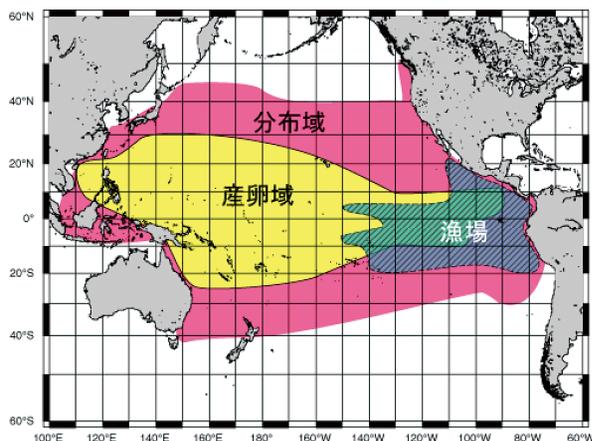
2016年6～7月に開催されたIATTC第90回年次会合において、以下を内容とする漁獲管理ルールが合意。

- ①最も厳しい管理を必要とする魚種については、まき網漁業に対する措置を複数年固定できるようにし、漁獲死亡率を、最大持続生産量 (MSY) を達成する水準以上とならないよう維持する。
- ②漁獲死亡率が限界管理基準値 (親子関係を想定し、加入が初期資源加入量の50%に減少する状態における産卵親魚量を維持する漁獲死亡率) を超過する確率が10%以上となる場合、50%の確率でMSYを達成する水準以下となるまで削減し、かつ限界管理基準値を超過する確率を10%以下とする措置を可能な限り早期に実施する。
- ③産卵親魚量が限界管理基準値 (親子関係を想定し、加入が初期資源加入量の50%に減少する状態における産卵親魚量) を下回る確率が10%以上となる場合、50%以上の確率で目標水準 (MSYを達成する水準の産卵親魚量) まで回復させ、かつ限界管理基準値を下回る確率を10%以下とする措置を2世代以内5年以内のうちより長い期間中に実施する。
- ④まき網漁業以外の漁業に関する追加規制をIATTC事務局職員が勧告する際には、対象資源に与える相対的な影響も踏まえ、まき網漁業で採択された措置と可能な限り一貫性を持たせる。

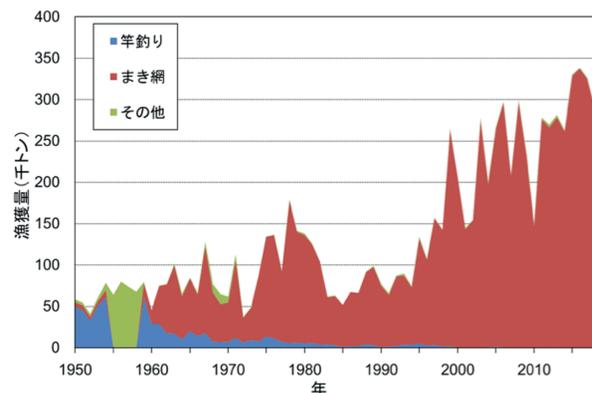


東部太平洋におけるカツオ資源指数

(a) まき網による漁獲量、(b) FAD操業CPUE、(c) 素群れ操業CPUE、(d) 標準化努力量、(e) 平均(漁獲個体)重量(kg)、(f) 相対資源量、(g) 相対加入量、(h) 相対資源利用率。CPDF：Catch per days fished。



太平洋におけるカツオの分布と漁場



東部太平洋におけるカツオの漁法別漁獲量

カツオ(東部太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量(最近5年間)	26.3万~33.8万トン 最近(2018)年:28.9万トン 平均:30.9万トン(2014~2018年)
我が国の漁獲量(最近5年間)	18~64トン 最近(2018)年:18トン 平均:32トン(2014~2018年)
管理目標	MSY
資源評価の方法	サイズ組成資源評価モデル 空間資源動態モデル
資源の状態	まき網素群れCPUEとFAD CPUEから過剰に利用されていないと考えられる。
管理措置	特定の措置はなし(メバチ・キハダの保存管理措置として、まき網漁業に対し72日間の全面禁漁及び沖合特定区での1か月の禁漁が導入されており、結果として本種に対する漁獲努力量は制限されている)
最新の資源評価年	2012年(2019年に指標値のみ更新)
次回の資源評価年	未定